

令和4年度 人権に関するポスターコンクール審査講評(全体)

本年度は、県内各地の小・中・義務教育・高等学校及び特別支援学校243校の児童生徒並びに一般から計2,403点の応募があり、4名の審査員で審査を行いました。

小学校低学年の作品は、人権の花であるひまわりを囲んで自分と家族や友達が笑顔で仲良く過ごしている様子を表現した作品が多く見られました。パスやペン、水彩絵の具等を使って、のびのびと線に表したり、明るい色で塗ったりして、楽しみながらポスター制作に取り組んだ様子が伝わってきました。

小学校中学年の作品は、人物とひまわりとを関連付けた画面構成で、自分や友達などみんなが大切な存在であることを伝える作品が多く見られました。自分の思いを伝えるために、描く絵の内容や着色方法などを工夫して、隅々まで粘り強く表現した様子が伝わってきました。

小学校高学年の作品は、互いのよさや違いを認め受け入れることの大切さや、いじめや差別のない社会を呼びかける作品が多くみられました。伝える相手や内容に応じて描く絵の内容を工夫し、線描や彩色など表現方法を効果的に生かしながら、粘り強く丁寧に制作した様子が伝わってきました。

中学生の部は、どの作品も完成度が高く、各自が人権についてしっかり考え、ポスターで伝えたいという姿勢が伝わってきました。応募作品は、現代社会が抱える課題に対して、人権尊重の多様な視点から主題を発想し、見る側に考えさせる図案や訴える言葉、レイアウト、配色等に工夫が凝らされていました。また、レタリングやポスターカラーによる着色も丁寧に表現されており、ポスターとしての仕上がりの美しい作品が多く見られました。

高校生の部は、参加校の減少が残念でしたが、応募作品は性の多様性やコロナウイルス感染症による差別など高校生らしい視点で主題を発想し、差別のない明るい社会の実現を訴える工夫が凝らされたポスターが出品されていました。すっきりした図案に色数を絞り込み丁寧に着色された完成度の高い作品が見られました。

特別支援学校の部では、人権について考え、自分の思いや願いを素直に伸び伸びと線描したものや鮮やかな色で楽しく着色した作品が多く見られました。主題を表現するために描かれた、笑顔の家族や友達、花、動物などが、見る側を優しい気持ちにさせてくれました。また、応募作品からは、一生懸命表現する児童生徒のみなさんの姿が感じられました。

全体的にどの作品も「人権を大切にしよう。」という思いを込めて表現されており、児童生徒のみなさんが表現する中で、人権について深く考えていることがうかがえました。